

碩心

社団法人 日本詩吟学院 岳風会 認可
神奈川 碩心 会 発行

11年 5月現在 逗葉大合 子山地 山地区 船地区 地区計	会員数 132名 190名 33名 355名	11年 5月 (322号) 発行者 千葉岳 関 編集者 白井岳 麗
--	------------------------------------	---

行事予定

○全国優秀吟者吟道大会 碩心会予選会

日時・6月2日(水) 19時より

会場・講座室

連吟の予選も行ないます。

○碩心会総会

日時・6月6日(日) 13時30分開会

場所・逗子体育館

(講座室より右に変更)

○碩心会第2回夏期吟道講習会

日時・7月10日(土) 9時受付

9時25分開講式

場所・逗子図書館ホール

講師・

千葉岳関 希望

加藤岳相 伊豆の海、一乗寺に遊ぶ

中村岳愛 俳句六題 審査課題より

松井正岳 曾我兄弟

中村岳郎 舟艇守の尺八

村田岳瀨 海、早に深川を発す

受講料・千円(弁当、テキスト代含む)

多数の御参加をお待ちしています。

又切り・6月6日(日) 教務部

指導者吟道講座のご案内

期日・

平成11年8月1日(日)

会場・

エポックなかはら大ホール

電話 044-1722-0185(代)

時間・

受付 9時30分、開講式 9時55分

閉講式 16時35分、解散 17時45分

受講資格・

準師範以上

受講料・

千五百円(テキスト、弁当共)

申込又切・

5月30日(日) 教務部まで

企画部より御礼

吟行会「さくらんぼ狩り」は、お陰様で、44名の方の参加を得ましたので、バス一台に満員となりました。

ご協力ありがとうございました。

第四回神奈川県本部

年齢別吟詠大会開る

五月四日栄区民文化センターにて行われ、朝早くから参加二百五名の方々の熱吟が展開されました。

二十名の入選中、碩心会から次の方々の五名が入選されました。

記

(プログラム順)

和歌の部 高館弘山(悠吟支部)

嵐田光風(若葉支部)

漢詩第一部 草柳武風(逗子A支部)

漢詩第二部 野田公岳(堀内支部)

松岡杏風(悠吟支部)

漢詩第三部 入選者なし

入選おめでとうございます。

今回入選された方は次回以降の出場は出来ません。惜しくも入選にもれた方は次回以降に挑戦して頂く様に頑張ってください。

又出場資格がある方でまだ挑戦されていない方も、ぜひ出場される様に期待します。

年齢別吟詠大会に参加して

堀内B 野田公岳

風薫る若葉の5月4日、横浜市栄区民文化センター「リリス」に於て、第4回年齢別吟詠大会が行われました。当日小雨模様で肌寒い日でしたが、すでに早くから出吟者は会場に入り、熱気にあふれていました。

大会は定刻通り9時20分より県本部詩吟合吟に始まり、大会会長挨拶と続き、出吟者吟詠となり、プログラム順に和歌の部、漢詩の部と高齢者ながら熱吟また熱吟でした。

自分も岳洵先生の薦めで漢詩2部に出吟させて頂くことになっており、出番も間近となり内心不安でしたが、先生が地下リハーサル室に案内してくださり、発声音程のご指導を頂き心強く、本番で教え通り吟じました処、審査発表では思いがけない賞を戴き本当に感激いたしました。

吟詠は発声、音程、節調が大事であるとの橋川岳瑛先生のお言葉がありました。

これからも残り少ない人生を吟道に励み、吟友との交流を深めて行きたいと思っておりますので、なお一層の御指導御鞭撻の程宜し

くお願いいたします。

ありがとうございました。

第八回神奈川地区

青少年吟道大会開催さる

青少年部 上村 岳 章

五月八日(土)金沢公会堂にて午前十時より行われ、青少年の進行で修礼、開会のことばをさがみ岳風会の六人の小学生が心を合わせて行い、さかんな拍手をされました。

小学生低学年の部から高学年、中学、高校そして青年の部と、碩心会からも植村粹山さん優子さんの兄妹が出場し、熱吟を練り広げました。

合吟の部では小学生が、手話を交えて行ったり、唱歌を交えたり担当の先生方の工夫が感じられました。

又詩舞や家族吟で彩りを添えて、総本部理事長先生の早朝よりのご臨席をいただき、素晴らしい大会になりました。

これからも是非青少年の育成の為に、会員皆さんの一層のご協力をお願い致します。

素晴らしい詩吟人生

逗子B 新井 国山

第32回詩吟・詩舞発表大会（五月二日）は家族的な和やかな雰囲気には終始しましたが、なかで特に素晴らしいのは鳴崎秀剛、清水朋風両先生の吟でありました。

ご両者とも九十歳を越えるご高齢で、進行の方から年齢の紹介があるたび客席に軽いざわめきがありました。

吟をお聞きして「吟と長寿のつながり」を改めて考えさせられる思いでした。歩かれる足の運びや風貌などに年齢を感じさせない若さがありますが、それに増した驚きは、不思議なほどの声の艶と力強さです。

知人の中には八十歳をまたず外出もおぼつかなるケースが多くあります。

両先生は吟によって心身の鍛練を積み、今日の健康を得られたものと推測します。

小生にとって、また大きな師の存在を感じました。



碩心会皆伝会

吟の集いに参加して

堀内・D 石渡 岳桂

風薫る五月九日、サーフィンの若者達が波乗りに興ずる、青い海を前にした逗子会館の二階グリルで、皆伝会の集まりがひらかれました。93名の参加者の方達が次々に真剣な面持ちで吟じられ、始めてお逢いする方にも何か身内の様な親しさを感じました。

この佳き日に、私達八名の総伝授与式も織り込まれ、千葉岳関会長より一人づつ許証を手渡して戴き、静かな感動が心の奥から湧き上りました。思えば、三十年という長い年月吟を続けてこられたのも、熱心な先輩、指導者達の暖かい励ましがあったればこそです。目に見えない諸々のお陰様に身を包まれ、今迄生きてこられた事と思えます。これからもつつがない日々があります様、友を大切に思い、吟道の長い発展を祈ります。

皆伝会に出席して

堀内・B 加藤 美 岳

五月晴れの9日の波静かな海を眺める逗子

会館に於て「皆伝会吟の集い」が9時50分に開かれました。

だんだん自分の出番がせまるにつき落ちて着かなければと、自分に言聞かせ、舞台上に立ちました。練習の時は出来ていたのに何でとあとで悔やまれます。まだまだ勉強不足、お恥ずかしい次第です。

温習会等の吟詠では絶句程度に限られていますが、今日は、普段聞くことの出来ない長い詩あり、今様、韻読等、勉強になりました。昼食後、今年一月付で総伝に成られた方の許証授与があり、また5月1日付で皆伝と成られた18名の皆様の紹介がありました。

本当におめでとうございます。この会の運営を担当された方々に敬意を表し内容的にもう少し詩舞が多い方が良かったと思います。（時間的に無理だったかも知れませんが）プログラム後半の諸先生方の吟にはうっとり、さすが吟歴の深さを感じ勉強になりました。

懇親会では民謡あり、カラオケ等とても楽しい有意義な一日を過ごすことが出来ました。これからも一生懸命吟道に精進いたしますので宜しくご指導の程お願いいたします。

小諸吟行

東伏見支部 北原 芳山

4月18日から19日、東伏見支部は沼田岳義先生他10名で小諸吟行を楽しんだ。長野新幹線で東京から軽井沢まで約一時間余、しなの鉄道に乗り換え30分足らずで小諸に到着。

車窓からは、唐松の林や満開の桜、桃の花の眺め。浅間山の南西麓に、ゆるやかな傾斜を見せて広がる小諸は、かつては馬子唄の流れる北国街道の宿場町。また島崎藤村の「千曲川旅情の歌」で有名なように、牧野一万五千石の城下町としても栄えた。城跡は駅の西側にあり、千曲川の地勢を利用して、戦国の武田信玄によって築城されたとも伝える。

早速懐古園の額の前で記念写真、三の門から城内へ。城内は折から爛漫と彩る桜で大変見事。先ず藤村記念館に入り、藤村の小諸時代を中心とした資料等を見学する。また広場では草笛教室が開かれていて、二、三人が参加して佐久の草笛をトライしてみたが、歌を吹けるには程遠し。さらに苔むした石垣や、深い空堀を右手に進むと、天守台下に藤村自筆の「千曲川旅情の歌」の詩碑がある。その

前で持参した横断幕をひらき、今回吟行の目的の「小諸なる古城のほとり」を心をこめて合吟する。

近くの展望台に立つと、千曲川がはるか断崖の下を流れ大きく蛇行しながら右手に消えていく。往時をしのび感慨しきり。

この後、小山敬三美術館に入り文化勲章も受賞した作品群を観賞。「浅間山新雪」「薄暮千曲の流れ」に感動。

昼食は濁り酒を飲みながら信州本場の手打ソバ。このあたり北国街道の道筋には、格子造りの家を始め、昔ながらの雰囲気が残って大変懐かしい。

その後一路別所温泉に向かい、早速温泉につかり、旅情をなぐさむことしばし。お酒が入りカラオケ大会で盛り上がり、沼田先生が熱唱で見事優勝する一幕もあった。

別所温泉は信州の鎌倉といわれるだけあって、歴史は古く平安時代の「枕草子」の中に七久里の湯として登場。鎌倉時代には、上田周辺の統治者、北条義政の別荘があったことから「別所」と呼ばれるようになったという。翌日は国宝や重文に指定されている安楽寺の三重塔や、常楽寺の石塔を見学。これら周

辺は、桜、桃、コブシが満開。

別所温泉を後に上田では、軍師真田氏の活躍の舞台、上田城を訪れた。城内はまたも桜が満開でお堀にたたえられた水に映えて、これまた息をのむ美しさ。真田氏の要害堅固な名城であったことが偲ばれる。

上田で新幹線に乗り、一同小諸吟行の旅を満喫、帰路についた次第でした。

退会

482 清水勢津子(唐木山)

住所変更届

249 佐竹岳扇(逗子A)

新住所 逗子市逗子3-16-19

昇和荘102

☎0468-173-9597

編集後記

広報というお役を受けて、満一年を迎えました。毎月全員集合で皆様から寄せられた原稿を編集しております。

今月は豊富に原稿をいただきましたので、一部を次号にやむを得ず、廻すようになりましたので、どうぞ、ご諒承下さいますようお願い申し上げます。

広報部